

## 2 匹めのうさぎ

### ウサギの性格は千差万別

人にもオープンな関係を好む人、愛想のいいタイプ、飽きっぽい人、押しの強い人、穏やかな方、エネルギッシュなタイプ、遠慮っぽい性格……、とまああげればきりがなほど、性格はいろいろです。そしてまた、そこがおもしろいわけで、みんなが明るくさわやかで協力的だったら、かえってつまらないような気がします。まず自分の性格を知り、次に相手のタイプを知ること、対人折衝のスキル（技術）をアップすることができます。それはウサギも例外ではありません。

私たちの病院にもウサギが来ますが、同じ家で同じエサで育っても、性格は実にさまざまです。

フレンドリーで社会性のあるウサギもいれば、甘えん坊でわがままな子もいるし、わが道を行くマイペースな性格のウサギ、神経質で臆病な子もいます。

さてあなたの家のウサギはどんな性格でしょう。性格を知ること、新しい子とのおつき合いもポイントが変わってくるかもしれません。

### 新しいウサギを迎える心構え

フレンドリーで社会性のあるウサギは人間大好き、動物大好き。好奇心も旺盛で、愛想もよいのでみんなにかわいがってもらえます。それで、人にさわられたり抱っこされたりしても、どんどん平気に慣れていきます。こんな性格なら新しい子が来ても大丈夫。

甘えん坊でわがままなウサギは警戒心が強いので、環境が変わることも苦手です。新しい子が来たことがおもしろくなかったり、ストレスになったりするかもしれません。

わが道を行くマイペースな性格なら、物事に動じることもありません。新しい子が来ても特別仲よく寄っていくわけで逃げるわけでもなく、お互いに一定の距離をおいて、本能的のまま気にならないかもしれません。

人もそうですが、性格は少しずつ変わることもあります。小さい頃、青春時代、年を重ねた頃と、だんだん性格が丸くなってきたりもします。ウサギもそんな気がします。ですから、こんな性格だから新しい子を迎えるのは絶対無理とあきらめるのは早計です。

どんな性格のウサギでも、相手によって変わるかもしれません。手間はかかるかもしれませんが、少しずつ慣れてくることもあります。人生じゃなくてウサギ生!? ケースバイケースで対応していきたいですね。

### 迎えた初日に注意すること

まず、新しい子に病気があるといけないので、検便と健康診断を済ませましょう。お腹にコクシジウムなどの寄生虫がいたり耳にダニがいたり、パストレラなどの感染症があったりすると、今いるウサギにもうつるからです。逆に、今いるウサギに病気があっても新しく迎え入れたウサギにうつりますので、両方のウサギの健康チェックは欠かせません。

次に、仲よくなれるかどうかはお互いの相性や性格なので、オス同士、メス同士、あるいはオスメスの組み合わせのどれだから大丈夫という決まりはありません。むりやりすぐ

と一緒にするのは危険です。

また、一見仲がよさそうでも、よく見ると、初めはお互いに遠慮しているだけでおとなしくしているということもあります。飼い主さんは、仲間がいたら楽しいから、仲よくなりたいだろうと希望を持って一緒にしますが、必ずしも希望通りにいかないこともあります。

## 迎えてから一週間の配慮

ウサギはとてもデリケートです。環境の変化やストレスにとっても弱い動物です。前日まで食欲も元気もあったのに、急にピタっと食べなくなったり、体調を崩して下痢をしたりします。

初めの1週間は、今いるウサギも新しく来たウサギも、よく観察してあげることが大切です。

どちらのウサギもアバウトな性格なら、あまり神経質になる必要はありませんが、今までのウサギにとって新しいウサギは、ある意味で邪魔者かもしれません。あとから来たウサギは、初めからそんなものかと受け入れてくれる傾向があります。

1~2日は、お互いのケージを少し離して置いてみましょう。そっと見守るだけにします。

3~4日は、ケージを近付けてみます。もともたにいるウサギにまず声をかけ、次に新しく来たウサギの名前を呼んであげましょう。

5~6日になったら、新しく来たウサギに、ケージの中で手からエサをあげたり、そっとなでてあげたりと、少しずつかまってあげることが大切です。

7日目あたりで、慣れてきたら時間を決めてケージから出して抱っこしたり遊んだりして、少しずつしつけも始めましょう。

人と同じで、その子その子のペースがあります。厳密にこの通りに進めるのではなく、10日目や20日目で抱っこするのもいいと思います。あせらずにゆっくり仲よくさせましょう。

## 2匹めで新しい発見も

初めは仲がよさそうでも、成長と共にケンカを始めるようなら要注意です。ウサギは、優しそうに見えて気が強いところもある動物なので、かみついたり攻撃したりします。

どちらかが元気や食欲がなくなったり、下痢や鼻風邪のような症状が出てきたときも別々にしましょう。

オスとメスの場合、仲がよすぎて、子ウサギが必要以上にどんどん生まれるときは別々に飼いましょう。いくらかわいくても、子ウサギの数が多すぎると管理が行き届かなくなり、ケガや病気が増えてきます。その場合、ケージを近づけていると、年頃なら相手が気になって発情したり、イライラして性格が悪くなったりします。お互いのケージはなるべく離して置きましょう。スペースの問題でどうしても無理なときは、木の板やダンボールで仕切りや囲いを作りましょう。

2匹以上いると、1匹で飼うより社会性が出てきたり、飼い主にとっても各々の違いが見えたりと楽しみが増えます。世話や管理は大変になりますが、きっと新しい発見もあると

思います。

気持ちやスペース、経済的にもゆとりがあったら、2匹目に挑戦！

## コラム オンエア

ラジオのレギュラー番組にパーソナリティとしてデビューすることになりました。「いつかラジオでDJやりたいな」。友だちからのメールの返事に、たった14文字だけ書き添えた一言が、一気にふくらんだのです。「どうしてDJ?」と聞くので「動物たちの力を借りて、世の中を元気に明るくできたら楽しいから」と答えました。「不況、リストラ、いろんな事件、暗いニュースばかり聞いていると滅入っちゃうから、先生、楽しいニュースを流そうよ」という飼い主さんたちのリクエストにも応えられるからです。

この秋から、文化放送で『宏子先生の動物クリニック』という15分番組がスタート。お相手は、これまた超元氣。世界で一番かわいい犬を飼っていると自認する、野村邦丸さん。うちの病院が休診の木曜日の午後が収録日です。人気タレントが来る日は、放送局の玄関前に女の子がたむろしている様子が見られます。

テレビやラジオによく出ている友だちに「ポイントを三つ」とたずねたら、「1、守衛さんにあいさつ。2、関係者全員にありがとうございますッ。3、最後に楽しかったですッ!と元気に明るい笑顔」だそうで、バンドをやっている娘に話したら「お母さん、ライブも同じだよ」とのこと。あいさつが一番なのだ。

さて収録のほうはというと、一つはちょっとしたアドバイスで病気が早くわかったらうれしいな。たとえば、ウサギだったらよだれが多かったり前足が濡れていたら歯の不正咬合かもしれない、などです。次にタイムリーなニュースで、獣医学会でのウサギの病氣、最新情報など。そして、動物を飼っていない人にも、動物のいる暮らし、世話は大変だけど、その分ちょっと濃いめの人生!? 楽しさもあるよということをお伝えできたらと思っています。集合住宅でも飼えるサイレントアニマルのウサギがどんどん増えて、「うなぎ上り」ならぬ「ウサギ上り」になったりしてね。

邦丸アナはさすがにプロで、上手に聞き出してくれたり私を乗せてくれるので、実力が4割、あとの6割は助けてもらって、収録も無事終了。ちょっと言葉につまったり言い間違えたところが2、3あったので「あの一、もう一度収録しなくていいですか」と聞いたら、なんと「少しとちったりするほうが親しみがあるし、言葉につまったらリスナーが『あらっ?』って立ち止まって聞いてくれるんです。あんまりさらっと文句なしにうまくいっちゃうと、かえって聞き流されちゃうんです」とディレクターさん。邦丸さんも「そうそうラジオって何でもあり! 風邪をひいていたら『風邪ひいちゃいました。リスナーのあなたは大丈夫ですか』って感じていけばいいんですよ」。

そんな感じで毎週土曜日の午後6時45分から7時までの15分間、文化放送で『宏子先生の動物クリニック』がスタート。ペット自慢、ペット相談、感動物語も募集中です。どうぞよろしくね。